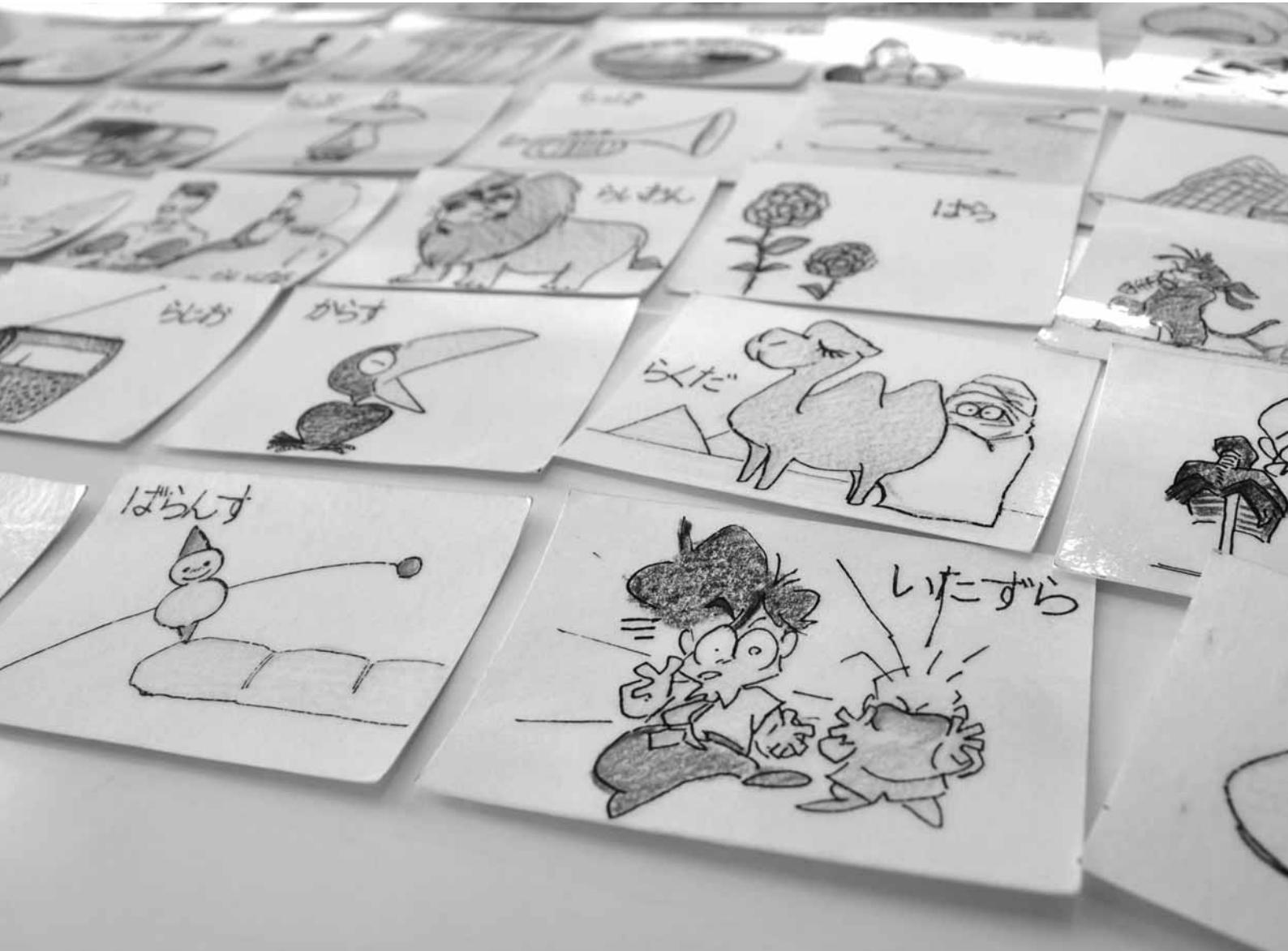


お話がちょっと苦手な
君のため、

少しだけ
上手に話せる
お手伝いを





ことばに悩む 親と子に 希望の光を 届け続ける教室

昭 和40年に釜石市で
最も早く、2年8月にスター
市内では、大更小の設置が
を皮切りに、県内の市町村で
ことばの教室が徐々に増えて
いきました。平成21年4月の
時点では、県内では31市町村の
小中学校など83施設に設置さ
れ、市内では大更、松野、安代
の3小学校にあります。

ことばの相談会が
初めて開かれたの
と、ことばの教室が徐々に増えて
いきました。平成21年4月の
時点では、県内では31市町村の
小中学校など83施設に設置さ
れ、市内では大更、松野、安代
の3小学校にあります。

ことばの教室は、発音がうまくできない、ことばが出にくい、ことばの数が少ない、指示を理解することが苦手など、ことばや話し方などについての指導や相談をする教室です。

ま

ず最初に、右 **じへ** と上に掲げた2枚の写真をご覧ください。

これは、大更小学校(三上聰校長児童403人)で行われている「ことばの教室」での授業の1コマ。ことばの教室を専門に担当する同校の下村絹子先生と一緒に、手作りのコミカルで分かりやすいイラストが描かれたカードの文字を使つて、楽しいゲームをしながらことばの勉強をしているところです。

この教室は、発音がうまくできない、ことばが出にくい、ことばの数が少ない、指示を理解することが苦手など、ことばや話し方などについての指導や相談をする教室です。

ことばの問題は、以前は「言語障害」という用語で呼ばれていたものだと考えられがちですが、そのほとんどは練習・訓練によつて改善を期待することができます。

子どもの発音は、話し始めのころは「サ行」が「シヤ行」に置き換えられ「オサカナ」が「オシャカナ」になつたり、音がひずむことがしばしば見られます。こうした子どもの多くは、個人差はあるものの発育とともに改善し、小学校に入学する前には正しい発音になりますが、中には舌に癖が付いているなどの要因のため、発音が直りにくことがあります。こうした要因を、練習を通じて改善し、正しい発音に近づけていくこうというのが「ことばの教室」です。



ト。これまでに194人のどもたちがことばの教室で強しました。松野小は13年月に開設され、これまでに15人が通級。安代小は15年4月に設置され、これまで60人がことばの勉強をしていきます。

こ

とばの練習は、早期に取り組むことで効果が出やすくなります。この検査は次の8つのことばを発音して、正しくできているかどうかチェックするのです。皆さんも、声に出して読んでみてください。

- ①おさかな
 - ②はがき
 - ③きやらめる
 - ④ひしもち
 - ⑤おにぎり
 - ⑥たんぽぽ
 - ⑦ちゅうかりょうり
 - ⑧せんせいさようなら
- なかなか難しいことばばかりですが、うまく発音できたりでよい。自分では発音できていると思っていても、正しい発音になっていない場合もあります。また、子どもの場合には家族も「いつもそういう

う話し方をする」と、聞きなれてしまつて違和感を感じず、気付きにくい場合も多くあります。

市は、専門家の目と耳で全員の調査を行つた結果、ことばの練習をした方が良いと考えられる子どもには、ことばの教室への通級をおすすめする通知を送付。このうち、希望する子どもが教室に通つています。

現

在も、多くの子どもがことばの教室に通つてきていますが、大きく5つの理由に分けられます。

左ページの表に掲げたものがその主な理由で、①ことばがはつきりしない、②ことばが

全ての就学児を対象に話しことばの検査を実施

●表 ことばの教室に通級している事例

区分	状態
ことばの発音がはつきりしない	舌の癖が付いていたり、さまざまな病気などの影響で、ことばを正しく発音することができない。
ことばがつかえたりなかなか出てこない	ことばを話すリズムが乱れ、スムーズに出てこない。うまく話せない不安感や緊張などからも起こります。
使えることばの数が少ない	ものの名前や言葉の意味がわからないう。文法がうまくつながらなくなったり、決まったことばしか使わない。
音を聞くはたらきが弱い	何らかの原因で音のきこえが弱いことがあります。特定の音だけ聞こえない場合などもあるので、医師の診断が必要です。
みんなと合わせることが難しい	L DやAD／HDなどと呼ばれるもので、会話やみんなと行動することが苦手などの場合があります。

理由や問題のあるところもすべて一人一人異なることがあります。ことばの教室での指導は、担当の先生と児童の一対一で行います。児童は正規の授業時間内や放課後に通うなどしますが、必要に応じてグループで勉強することもあります。ことばの勉強は、右の写真のように2人で並んで行います。1週間に1～2回程度、子どもの置かれた問題に合わせて、勉強内容をオーダーメー



一人一人と 向き合って ことばを つむぎ出す練習

とても多くの理由からことばの問題は起きていますが、中にはことばの教室だけでは対応が困難な場合あります。特に音のきこえが理由の場合などには、医療機関の受診や、言語聴覚療法に基づくリハビリテーションが必要になります。また、状況に応じて、医師の診断を受け

音がはつきりしない子どもには、7歳の写真で紹介した「リヤ」「リュ」「リヨ」などの言いにくいことばが含まれた単語をたくさん話す練習をしたり、正しい舌の使い方ができるように鏡で舌や口の動きを見せるなどの勉強を行います。ことばがつかえたり、なかなか出てこない子どもには、なか読みをしたり、人前で話したり行事の企画に携わるなどして自信につながるような経験をさせるほか、自分自身の状況を受け入れていくような働き掛けなどを行います。

ことばの不足を補うよなかで組み立てています。音がはつきりしない子どもには、物の名前をカードなどで学んだり、「いつのどこで」「誰が」「何を」「どうに」となどの話し方について勉強して、ことばの意味を理解してことばを上手に使うようにします。

使うことばの数が少ない子どもには、物の名前をカードなどで学んだり、「いつのどこで」「誰が」「何を」「どうに」となどの話し方について勉強して、ことばの意味を理解してことばを上手に使うようにします。

多くの人に 支えられ 194人の児童が 通級する

大更小ことばの教室が20周年を迎えることを祝つて11月28日、大更公民館でことばの教室20周年記念式典(同20周年記念事業実行委員会主催)が行われました。

ことばの教室に通級する児童や保護者、指導に携わった教師など約80人が出席。大更小の三上聰校長は「大更小ことばの教室には、これまでに194人の児童が通級しました。教室に通う児童の持つている課題は、みんな異なります。一人一人が話すことに自信を持ち、発言や学習に取り組んでいけるように指導を行つてきました。この日を迎えることができたのも、親の



また、20年前の初代通級生から寄せられたメッセージが読み上げられました。メッセージでは、自分の声について当時持っていた悩みや、支えてくれた両親への思いなどがつづられます。今では、その悩みを乗り越えて声を仕事にしようと挑戦していることが紹介されました。

ことばの教室に現在も通級している児童や、昨年・一昨年までに終了した児童が詩「ひとつだけ」を群読。20周年を記念して、ことばの教室での勉

会の皆さんをはじめ、歴代の校長先生や関係者の多大な努力があつたことによるものであります。これからも、ますますのご支援をよろしくお願ひします」とあいさつしました。

続いて、同実行委員会の吉田理智子会長から、9年から17年まで大更小ことばの教室を担当した梅野展和教諭(現桜城小教諭)と教室開設に尽力した初代親の会会長の沢口勝美さんを表彰しました。

武田常徳副市長は「保護者や関係者の皆さんのがんばり努力によって今日を迎えられ、おめでとうございます。ますますのご発展をお祈りします」とお祝いの言葉を述べました。

強風景などをあらわした呼び掛けや「友だちになるために」を合唱しました。

式

典に統いて、20周年を祝う祝賀会が行われました。

はじめに、同教室親の会会長の吉田理智子さんは「たくさんの親の努力で、教室開設への道が開かれ、子どもたちのがんばりがあったから、今日があります。30周年、40周年、50周年を迎えるよう、これからもがんばりましょう」とあいさつしました。

同教室の開設当時、旧西根町教育委員会に勤務していた高橋北英教育長は「早期に訓練を始めれば、効果が大きくなるという考え方のもと、ことばの教室は続けられてきました。今後とも継続して、子どもたちの希望としてあり続けられるよう願います」とお祝いの言葉を述べました。

また、4年前まで大更小ことばの教室を担当した梅野展和教諭は「市内にある3つの教室が手をつけないで、市民に愛されるようになつてもいいです。そのためにも、通級している子どもたちには、家族にどんどんことばの教室での勉強のお話をしてもらい、身近なものとしていつてくだ



[5]



[3]



[2]

①ことばの教室に通った子どもたちが詩「ひとつだけ」の群読や呼び掛けなどを行い、学習の成果を披露②元担当の梅野展和先生が、当時を振り返りながら今後の教室のあり方について語りました③子どもたちを中心に参加者全員で「友だちになるために」を合唱④教室開設に尽力した初代親の会会長の沢口さんを表彰⑤子どもたちが将来の夢を語る映像を上映しました



[4]

地域と 手を取り合い 親しまれ 愛される教室に

さい」と話しました。

続いて、ことばの教室に通つた子どもたちが将来の夢を語る映像を上映。プロ野球選手や小学校の先生など、さまざまな夢を披露し、会場を沸かせました。

最後に、記念式典でも歌われた「友だちになるために」を出席者全員で合唱し、20周年記念行事の一切を終了しました。

ことばの教室について詳しく述べ、市教育委員会事務局は、市立教育課（☎74-2111、内線2317）、または開設校の大更小学校（☎76-1223）、松野小学校（☎74-3310）、安代小学校（☎72-310）まで。